「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」の目標、意義および成果
—2012 年～2013 年中間報告—

研究代表者　富盛伸夫

1. はじめに：本研究プロジェクトの全体構想と概要
1.1 本研究プロジェクトの概要
1.2 研究の目的、範囲、意義など
2. 研究プロジェクト形成の動機と背景
3. 研究体制と組織
4. 研究計画・方法
5. 現在までの達成度
6. 本研究プロジェクトの研究活動一覧
6.1. 講演会・シンポジウム・研究会等 (共催等を含む)
6.2. 海外調査等一覧
6.3. 運営会議一覧

1. はじめに：本研究プロジェクトの全体構想と概要

1.1 本研究プロジェクトの概要

この中間報告書でまとめている研究成果は、日本学術振興会科学研究費助成事業の支援による基盤研究（B）課題研究「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」(Comprehensive Study on Language Education Policies and Cross-linguistic Proficiency Evaluation Methods for Asian Languages)」(2012 年度～2014 年度、課題番号：24320104、代表者：富盛伸夫）で実践された研究活動の一端を公開するものであり、ほぼ研究期間の前半部分に相当する。冒頭の「はしがき」で述べたように、2 年目に中間報告を行う理由は、研究メンバーの方々が多くの研究調査の実績をあげていること、そして、この成果はいち早く公開することで現時点での貴重な報告としての価値をもつこと、である。EU 統合への要として構想された言語政策 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFR）は 10 年で次第に実用域に入りつつあり、さらに日本を含める非ヨーロッパ言語域にも適用の試みが拡がりつつある。当初の若干の誤解を含めた「到達基準」「異文化間特質の軽視」などについても、丁寧に言語文化教育総体についての見識を示しつつある。下記に述べるように、過去

2 つの科学研究費補助金による共同研究を経て、本研究グループの中核をなすメンバーの問題意識も同時進行的に展開し、また深化してきたと思える。中間報告書として、以下に、本研究の概要をまとめ、順次、研究グループの形成の背景、期待される成果の意義などについて簡潔に記しておきたい。

なお、研究の分野・範囲を示すキーワードを記すと以下のとおりである。

(1) 高等教育　(2) CEFR　(3) 外国語教育政策　(4) 言語能力評価
(5) アジア諸語　(6) 言語能力検定　(7) 多言語文化社会　(8) 言語教育法

1.2 研究の目的、範囲、意義など

激動する国際社会の中で日本が他の国々と共生し協働して地球社会の未来を創ることができるか否かは、なによりもまず質の高い教育によって決定される、といえる。現代では「グローバル人材」というような多義的で曖昧な表現が用いられるが、我々の研究教育環境の中では、地球社会の多元性をふまえつつ、コミュニケーション・パートナーの多様性に鑑み、複数の高度な言語能力を身につけ複層的・多元的文化を理解する資質をもつ人々を育て上げることが喫緊の教育目標と言えるだろう。東京外国語大学では、これを完結に「グローバル・インターフェース力を備えた」人材の育成と表現することがあるが、これこそが我が国の意識してとらねばならぬ言語教育政策の根幹であり、最重要課題でもある。

これは EU 的に言えば、「複言語・複文化主義」の尊重であり、それを目指すのではなく、むしろ前提として言語教育を構想する、基盤的な、出発点に据えなくてはならぬ理念である。単一の、あるいはごく少数の「グローバル・コミュニケーション言語」の教育のみを重視するのではなく、言語の多様性をふまえた外国語教育の理念・目標・評価システム自体を問い直す必要があろう。

そのための有効な方策の研究を構想する我々は、欧米の先行する言語能力評価参照枠組みの批判的検証をもとに、下記（2. 以下）に述べるように、本研究の全段階とも言える前段階的研究グループを組織して 2 回の科学研究費補助金による共同研究を行ってきた。本研究はその発展的展開として、アジア諸語を含む通言語的言語能力測定尺度の研究に向かってきた。

研究計画を構想するにあたり、本研究の目的を、

(1) アジア諸語を主たる対象として、より汎用性の高い言語能力評価システムの開発に取り組むこと、
(2) 通言語的かつ透明性の高い言語能力評価尺度の確立をめざすこと、
(3) 高等教育レベルに加え中等教育及び生涯教育や非公式教育サービスなど現代社会のニーズにも対応すること、

(4) アジア諸語の言語教育に成果を反映し、教育方法と評価法の新たに開発し研究成果を広く社会的に還元すること、

と設定している。

上記の目的に対応させつつ本研究の活動計画に盛り込まれた研究範囲とその意義は次のようなものである。

まず、EU が CEFR の適用範囲としてきた、主として EU 言語圏の諸言語のみならず、それ以外の言語圏、特に音声・文構造・語彙・談話構造など各レベルで多様な言語特質を持つアジア地域の諸言語に研究対象を拡大することとした。

次に、特にアジア各国の主要な大学等高等教育機関での言語教育法を調査した上で、妥当な言語能力測定尺度を構想し、アジア諸語への適用可能性を研究することを作業目標とした。

日本の大学でも進められている GPA 導入などへの対応など、社会的責任をともなう成績評価の透明性確保の観点から、CEFR など欧米の能力評価基準を、アジア諸語を含め、日本の中等･高等教育の言語教育の現場に適用することの妥当性･問題点を検証することが可能ならば、その意義は大きいといえる。

それに続く具体的な作業としては、外国語能力評価システムの最新動向研究を行った上で、特にアジア諸国の大学等での CEFR 適用状況を調査し、CEFR を批判的に援用した通言語的共通参照基準のモデル化を試み、これをアジア諸語に適用して新たな言語教育教材を試作・試用し、教育現場で再検証する段階まで進みたい。

幸いなことに、本研究に参加する研究者は言語研究者であるとともに、中等教育・高等教育において外国語教育の実践者であり、理論・開発と検証作業がリンクできる。例えば、言語教育の到達目標と評価基準に文化的同化、非言語的（non-verbal）コミュニケーション能力、談話的・語用論的操作などを加えるかどうかなど、重要な問題の検討も、本研究組織の内部で実現可能であると期待している。

本研究の特色のひとつは、中等教育･生涯教育での教育現場と協働し、特に非欧米諸語に適用した言語の教育法と成績測定尺度の具体的再検討を行いつつ、多様な社会的ニーズに対応した外国語能力評価方法を開発することも研究の範囲に入れている。

2. 研究プロジェクト形成の動機と背景

我が国の高等教育機関では地球的課題に取り組む上で必要な世界諸地域の人々と協働するグローバル・インターフェース力を持ち、英語のみならず、現地語を含む複数の言語運用能力を備えた人材の養成が急務である。現在、その緊急性に反して、アジア諸語の効果的な教育法と個別言語の枠を越えた厳格な成績評価法の開発は、ほとんど着手されていない。

ヨーロッパ連合（以下、EU）では、高等教育の抜本的改革「ボローニャ・プロセス」の枠組

みの中で、各国独自に担われてきた知的再生産を担う高等教育が標準化され、急速かつ質的に変容しつつある[1]。とりわけ、外国語教育法の改革と言語能力評価基準の共通性を掲げた共通参照枠組み」の適用は理論面･実践面ともに急速に進みつつある。しかしながら、EU において、アラビア語、中国語、日本語等、非印欧語への CEFR の適用可能性の研究はされているものの、その困難さは、文字体系･音声･文法の隔たり、そして文化的ギャップのために、通言語的測定尺度は確立されていない。ここにこそ、日本やアジア諸国の当事者が研究活動を焦点化し先鋭化して、新たな国際的な共通枠組みを開発･提案する可能性を持っている。以上、言語教育、言語教育政策分野での時代的適合性が増してきたのも、研究組織の形成の動機となっている。

以下に、本研究プロジェクトの背景を簡潔に述べる。

(1) すでに研究代表者（富盛伸夫）は 1990 年代から本課題にかかわる多言語の対照言語学に基づく言語教育研究グループを組織し、東京外国語大学学内共同利用施設である「語学研究所」を中心に、そのための研究活動を開始した。本研究はその成果と組織を活用している。研究協力者には中等教育･生涯教育･語学能力検定試験などで非欧米語の言語教育や言語能力検定試験に従事するものもおり、公式・非公式教育サービスなど多様な社会的要請に対応しうる外国語能力評価方法のモデルと、より効率的な教材を開発しうる環境にある。

(2) 平行して、他教育研究機関との連携を深めるために、「外国語教育学会」の内に、研究代表者が会長職にあった 2004 年以来、言語教育政策に関わる研究活動を推進し、本研究に関連する分野で 3 度のシンポジウムを開催して研究交流を行い、本研究課題の企画に関する有益な示唆を得た[2]。

(3) 上記の準備的活動をふまえ、2006 年度より 3 年間、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）「拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究」を組織・推進し、13 名の研究参加者が対象国における聞き取り調査に基づく言語教育政策と CEFR の実践・実効性の研究を行い、その成果は研究集会と総括的報告書で公開した[3]。

(4) 上記科研課題研究に引き続き、本研究の代表者富盛は 2009 年度より 3 年間、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）「EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究」を 14 名の専門家によって推進し、ボローニャ・プロセスが進行中の EU 諸国における言語教育の質的変容と欧米諸語の成績評価法の調

---

[1] 東京外国語大学国際学術戦略本部（OFIAS）（2008）『東京外国語大学国際学術戦略本部（OFIAS）調査レポート・資料集 I』（新井早苗編著）にはボローニャ・プロセスの概要が詳しく分析されている。東京外国語大学のホームページで国際学術戦略本部のサイトで公開している。(http://ofias.jp/j/strategy/bologna.html)

[2] 外国語教育学会（JAFLE）公式サイト（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/jafle.htm）を参照。

[3] 平成 18-20 年度科学研究補補助金基盤研究（B）研究プロジェクト報告書『拡大 EU 諸国における外国語教育政策とその実効性に関する総合的研究』, 2009 年 3 月.

査研究をまとめて成果刊行物とした[4]。

(5) 本研究は、欧米やアジア地域の高等教育機関を包括しうるコンソーシアムなど、研究連携組織を活用できる。この国際展開力が期待される柔軟な機動性は、本研究グループの特色である。東京外国語大学が提唱し 2007 年 3 月に結成した「アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム」(以下、CAAS) の研究連携を活用し、イギリス・ロンドン大学 SOAS、フランス・国立東洋言語文化学院 INALCO、オランダ・ライデン大学、シンガポール国立大学、アメリカ・コロンビア大学等との国際的研究連携を組織して共同研究が可能であり、さらに 2011 年 7 月に締結した日中韓教育連携コンソーシアム（CAMPUS-Asia）の枠組みを利用し北京外国語大学、韓国外国語大学からの協力支援を得ることができる。研究代表者富盛は、申請時にはこの 2 つのコンソーシアムの研究推進者の一人であり、大きく類型論的特徴の異なる言語間に適用可能な言語教育法の開発と能力評価基準研究で国際連携を企画することについての合意を、両コンソーシアムのメンバー大学から得ている。

(6) 2009 年より東京外国語大学に創設された「世界言語社会教育センター」(以下、WoLSEC) のセンター長として富盛は、学部言語教育のカリキュラムの構造化などの改革、GPA 導入の準備的研究、成績の厳正化を可能にする方策の研究などを学内外の研究者を招いて研修会を開催してきた[5]。特に、2011 年 3 月には国際シンポジウム「高等教育における外国語教育の新たな展望–CEFR の応用可能性をめぐって–」を上記(4)の科研課題研究と共同で開催し、欧米及びアジア諸国から 13 名の言語教育学分野での指導的研究者を上記 CAAS 加盟大学から招聘して貴重な研究交流の成果を得た。(欧文の会議記録論文集は 2012 年 3 月に刊行している[6])

本研究課題の着想は、上記シンポジウムで提起された、アジア諸語の言語教育法と通言語的能力測定尺度を巡る議論から生まれた。本研究遂行には、これら海外参加者の協力が随時得られている。

上記 2 件の科研課題研究と東京外国語大学の学内外での研究連携から生まれた蓄積と成果の基盤の上に、EU の実践しつつある外国語能力評価基準 CEFR の実効性の検証をさらに進めると共に、欧米諸語に加え、アジア諸語への適用可能性の研究を企画するに至った。

3. 研究体制と組織

本研究グループは、上記の先行する 2 つの科学研究費補助金による共同研究のメンバーを中核に、新たな研究目的と範囲に適した次のような共同研究者・研究協力者から組織されている。

---

[4] 平成 21-23 年度科学研究補補助金研究基盤研究（B）研究プロジェクト報告書『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』, 2012 年 3 月.

[5] http://www.tufs.ac.jp/common/wolsec/

[6] 東京外国語大学世界言語社会教育センター　国際シンポジウム報告集 2011『高等教育における外国語教育の新たな展望 –CEFR の応用可能性をめぐって–』, 2012 年 3 月.

研究組織上の区分	氏　名	所属研究機関・職名	役割分担
研究代表者	富盛伸夫	申請時　東京外国語大学 大学院総合国際学研究院・教授 （現在　名誉教授）	研究統括及び外国語教育政策、 フランス語能力評価法・ 生涯教育
研究分担者	高垣敏博	大学院総合国際学研究院・教授	スペイン語教育
研究分担者	根岸雅史	大学院総合国際学研究院・教授	英語教育統括、能力評価法研究
研究分担者	成田　節	大学院総合国際学研究院・教授	ドイツ語教育
研究分担者	三宅登之	大学院総合国際学研究院・教授	中国語教育
研究分担者	藤森弘子	留学生日本語教育センター・教授	日本語教育学、第二言語習得論
研究分担者	上田広美	大学院総合国際学研究院・准教授	カンボジア語教育
研究分担者	萬宮健策	大学院総合国際学研究院・准教授	ウルドゥー語教育
研究分担者	川上茂信	大学院総合国際学研究院・准教授	スペイン語教育
研究分担者	岡野賢二	大学院総合国際学研究院・准教授	ビルマ語教育
研究分担者	南　潤珍	大学院総合国際学研究院・准教授	朝鮮語教育
研究分担者	野元裕樹	大学院総合国際学研究院・講師	マレーシア語教育
研究分担者	田原洋樹	立命館アジア太平洋大学・准教授	ベトナム語教育
研究分担者	拝田　清	四天王寺大学教育学部・准教授	言語政策、英語教育学
研究分担者	矢頭典枝	神田外語大学外国語学部・准教授	カナダの言語政策
研究協力者	山崎吉朗	日本私学教育研究所・専任研究員	中等教育連携、フランス語教育
研究協力者	降幡正志	大学院総合国際学研究院・准教授	インドネシア語教育
研究協力者	山本真司	大学院総合国際学研究院・准教授	イタリア語教育
研究協力者	丹羽京子	大学院総合国際学研究院・講師	ベンガル語教育
研究協力者	ウントゥン・ユオノ	国立インドネシア大学・講師	インドネシア語教育
研究協力者	ウィチャイ・ピアンヌカチョン	東京外国語大学・教員	タイ語教育

第一に、欧米諸語の言語タイプ以外のアジア地域の多様な言語について各国大学等高等教育機関で教材作成や教授法、成績評価法を調査することにより、より汎用性の高い能力到達度測定尺度に向けた開発準備を行い、その上で、アジア諸語への適用可能性を検証するための研究集会を開催する。

第二に、上と並行して、CEFR など先行する外国語能力評価システムの最新動向調査を行う。次に、特に CEFR のアジア諸語への適用状況を調査し、CEFR を批判的に援用した通言語的共通参照基準のモデルを開発する。このための国際研究集会を企画・実施し、成果を公刊する。

第三に、特に非欧米諸語の中等教育･生涯教育･語学能力検定試験等における能力測定尺度を具体的に検証の上、多様な社会的ニーズに対応した外国語能力評価法を開発し、成果を還元する。

上の研究分野に対応した 3 つの研究班を組織して効率よく研究と成果公開を推進する。

【研究体制】

(1) 下記研究計画に対応した 3 つの研究班を組織し、参加者は専門研究領域において、計画遂行に向けて協働する。部分的な研究遂行上の問題があった場合には、各班内部で分担者が調整の責任を持ち、全体的な研究遂行の管理・調整は代表者富盛伸夫が総括的責任を担う。

・A 班：アジア諸国における外国語教育法・能力評価基準・測定方法に関する研究
藤森（日本語担当）、三宅（中国語担当）、南（韓国語担当）、田原（立命館アジア太平洋大学、ベトナム語担当）、上田（カンボジア語担当）、野元（マレーシア語担当）、降幡正志（協力者：東京外国語大学准教授、インドネシア語担当）、ウントゥン・ユウォノ（協力者：国立インドネシア大学講師、インドネシア語担当）、岡野（ビルマ語担当）、萬宮（ウルドゥー語担当）、ウィチャイ・ピアンヌカチョン（協力者：東京外国語大学教員、タイ語担当）、丹羽京子（協力者：東京外国語大学講師、ベンガル語担当）

・B 班：EU、カナダ、オセアニア圏諸国の外国語能力評価システムの最新動向調査と通言語的透明性の検証、汎用性の高い基準適用可能性モデルの開発
富盛（EU 委員会担当）、根岸（CEFR･英語担当）、高垣（スペイン語担当）、川上（CEFR・スペイン語担当）、成田（ドイツ語担当）、山本真司（協力者：東京外国語大学准教授イタリア語担当）、矢頭（神田外国語大学、カナダ担当）、拝田（オセアニア担当）

・C 班：中等教育及び社会的ニーズに対応した外国語能力到達度評価基準に関する研究
富盛（生涯教育等における到達度評価尺度の研究担当）、山崎吉朗（協力者：財団法人日本私学教育研究所、フランス語能力検定試験及び中等教育の研究連携担当）

(2) 国際研究連携組織との研究協力体制の構築・遂行：

・CAAS コンソーシアム（富盛）、日中韓 CAMPUS-Asia コンソーシアム（富盛）、WoLSEC 国際研究連携組織（拝田）

(3) 国内外の言語能力評価法分野の専門家との協力体制：専門的知識の提供者による研究会、講演会、シンポジウム参加による研究協力（以下、CAAS 及び CAMPUS-Asia 加盟機関以外）

・国立台湾大学、ベトナム国家大学ハノイ校、同ホーチミン校、カンボジア・プノンペン大学、国立インドネシア大学、韓国・延世大学、EU 評議会言語政策部門、フランス・

国際教育学研究センター（Centre International d'Études Pédagogiques、France）

・立命館アジア・太平洋大学、大阪大学外国語学部、神田外語大学、財団法人日本私学教育研究所

4. 研究計画・方法

随時研究協力が得られる範囲で、以下の優先順で企画し実施する。上記の研究班ごとに設定された研究計画を遂行する。

(1) アジア諸国における外国語教育法・外国語能力評価基準・測定方法に関する調査研究：（A 班）本研究計画では、上記国際連携研究コンソーシアム参加大学及びアジアの諸大学で対照言語学的共同研究交流を行うとともに、現地調査により、Web や二次資料の情報では得られない信頼度の高い情報が入手できる。この計画には、アジア諸国の高等教育機関での外国語教育システム立案者や言語教育従事者（教師等）に対する聞き取り調査を含む。これをふまえ、次年度の研究準備が可能となる。

各国担当者は、学習対象の「英語」（Englishes）及びアジア諸語の教材・シラバス・評価法等の資料を収集し、現場教員・学生のインフォーマントを用いてデータを集める。同様に、アジアにおける日本語教育における評価法の調査を行う。

藤森（日本語教育担当・CEFR の適用妥当性研究）、三宅（中国語教育担当）、南（韓国語担当:延世大学他連携担当）、田原（立命館アジア太平洋大学、ベトナム語担当:ベトナム国家大学ハノイ校、ホーチミン校連携担当）、上田（カンボジア語担当）、野元（マレーシア語担当）、降幡（協力者：インドネシア連携担当）、ウントゥン・ユウォノ（国立インドネシア大学連携担当）、岡野（ビルマ語担当）、萬宮（ウルドゥー語担当）、ウィチャイ・ピアンヌカチョン（タイ語担当）、丹羽（ベンガル語担当）

(2) EU、カナダ、オセアニア圏諸国の外国語能力評価システムの最新動向調査と通言語的透明性の検証：（B 班）

本研究計画全体の基礎的作業として、現在 EU で進められている外国語能力評価基準 CEFR の浸透度に関する高等教育機関等での最新の取り組み状況を調査する。中核的メンバーによる先行研究（2 つの科研課題研究）を発展的継承しつつ、特に、ボローニャ・プロセス、学習者のモビリティー、単位互換制度上の要請等を要因とする外国語能力評価法の変革を EU 委員会関係部局及びフランス国立東洋言語文化学院 INALCO（富盛伸夫担当）のほか、複数言語併用大学等で調査する。

Can-Do 評価法の専門家である分担者根岸は特に英語リスニング評価における CEFR の適用可能性を調査研究する。国内調査としては、CEFR に準拠する能力評価基準を適用した大阪大学外国語学部の優れた取り組みを参照例としつつ、他の教育機関においても CEFR 基準の高等教育への適用について調査と検証作業を行う。特に、CEFR に代表

されるコミュニケーション達成能力の通言語的尺度と従来の言語構造の学習進度に即した基準との相関を研究する。

この調査結果をA班と共同の研究集会で精査した後、国内外の学会で成果発表を行う。

(3) 中等教育及び社会的ニーズに対応した外国語能力到達度評価基準に関する研究:(C班)

中等・高等教育機関でのアジア諸語を含む外国語科目の単位認定・教材・学習への活用実態などについて、研究班を組織して調査し、問題点を洗い出す。到達度を明記した学習者ポートフォリオの実施例を日本（東京外国語大学を含む）と海外の連携機関とで調査し、学習者の意欲、動機付け、到達度への影響などを調査する。また、シラバスへの明示など、可視化した評価基準の情報提示の方法などの調査研究を、分担して行う。

並行して、EU が公開している学生・社会人を対象にした CEFR 準拠のオンライン言語能力自己評価システム（DIALANG）を活用し、CEFR の達成度評価基準と、EU 諸国で実施されている語学能力試験における評価基準のアジア諸語への適用を検討する。東京外国語大学 21 世紀 COE の成果として公開している「TUFS 言語モジュール」の通言語的学習教材を活用し、多様な社会的ニーズに対応した学習目標と到達レベルの設定についても柔軟なモデルを開発する。

非公式教育サービス部門である語学学校や外国語検定試験の能力評価基準の実際を把握する。アジア諸語（中国語、韓国語、インドネシア語、タイ語など）を含む外国語能力資格試験について、具体的かつ網羅的に検証し、級別到達度評価の根拠、音声・文法・語彙項目ごとの学習進度との連関を精査し、この結果を、次年度の計画への基礎資料とする。調査の中間まとめができ次第、研究会や国内外の学会で成果発表を行う。

担当者 : 富盛（生涯教育・非公式教育サービスにおける到達度評価尺度の研究担当）、山崎（協力者：フランス語能力検定試験と中等教育との研究連携担当）

5. 現在までの達成度

計画第 1 年目としての成果は、各班（A、B、C）の研究課題に沿ってアジア・オセアニア地域での外国語教育法と能力評価基準の現地調査を行い、現在解析中である。その成果の一部は学会、シンポジウム、研究会などに於いて公開されており、おおむね順調に遂行されてきたと言える。

しかしながら、第 2 年目はさらに多くのアジア諸国の言語能力評価基準について、きめの細かい調査研究が必要とされることは認識している。

計画第 2 年目の研究計画は、引き続き各班（A、B、C）の研究課題に沿って、さらにきめの細かなアジア・オセアニア地域での外国語教育法と能力評価基準の現地調査を行い、海外の研究者との交流を深め、学会、シンポジウム、研究会などで成果の公開に努めている。

6. 本研究プロジェクトの研究活動一覧

6.1. 講演会・シンポジウム・研究会等（共催等を含む）

第 1 回研究会

日時：2012（平成 24）年 6 月 15 日　18:30〜19:30

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

「高等学校における複言語教育の現状・展望と大学教育との連携について」

発表者：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

※共催：語学研究所

第 2 回研究会

日時：2012（平成 24）年 11 月 22 日　16:30〜18:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

発表 1：「「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準 ―日本学術会議公開シンポジウム―」（2012 年 7 月 14 日、於 日本学術会議会議場）の報告」

発表者：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）

発表 2：「CEFR をめぐる EU の最新動向、およびルーマニアの主要大学における CEFR 導入の現状」

発表者：ミハイ・テオドラ（東京外国語大学 国際コミュニケーション通訳特化コース）

発表 3：「韓国の外国語教育および外国語としての韓国語教育における CEFR 導入・応用の現状 ―実例を中心に―」

発表者：ソ・アルム（東京外国語大学大学院博士後期課程）

※共催：語学研究所

第 3 回研究会

日時：2013（平成 25）年 2 月 1 日　18:00〜20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

発表 1：「アカデミック日本語教育におけるアカデミック・タスクの意義」

発表者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

発表 2：「CEFR の日本の外国語教育・日本語教育における受容の実態」

発表者：浜津大輔（東京外国語大学大学院博士前期課程）

発表 3：「紹介：“The Common European Framework of Reference−The Globalisation of Language Education Policy−”, Edited by Michael Byram and Lynne Parmenter」

発表者：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）

※共催：語学研究所

国際シンポジウム（共催）

「外国語教育と異文化間教育」

日時：2013（平成 25）年 3 月 7 日、8 日　9:30ー16:00

会場：東京外国語大学府中キャンパス アゴラ・グローバル 3 階

・3 月 7 日（1 日目）

"Cultural Exploration and Critical Reflection:
Teaching of Language and Culture in Higher Education in Singapores"

発表者：CHAN Wai Meng（シンガポール国立大学）

「国際共通語としての英語教育と異文化理解」

発表者：鳥飼玖美子（立教大学）

「ことばのなかの文化／教室のなかの文化」

発表者：石川慎一郎（神戸大学）

"Rethinking Language Learning and Culture Learning"

発表者：吉田一彦（宇都宮大学）

15:10～16:10　全体討議　　司会：拝田 清（四天王寺大学）

・3 月 8 日（2 日目）

"Cultural-Based Material Development for Teaching Indonesian for Non-Native Speakers (BIPA)"

発表者：UNTUNG Yuwono（インドネシア大学）

"The Effect of Staying in a Multicultural City"

発表者：丹羽京子（東京外国語大学）

"Introduction to World Englishes at Tertiary Education in Japan"

発表者：拝田 清（四天王寺大学）

11:40～12:00　全体討議　　司会：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター）

"The Renaissance of the Malacca-Portuguese Creole Language and Importance of Its Cultural Traditions"

発表者：MARBECK Joan Margaret(Malacca)

Makista: Past, Present and Future"

発表者：NUNES Mário (University of Macau)

"National Identity, Education and Linguistic Diversity: Prospect and Politics in Brazil"

発表者：GUISAN Pierre (University of Rio de Janeiro)

15:40～16:00　全体討議　　司会：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター）

※主催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）／共催：語学研究所

第 4 回研究会

日時：2013（平成 25）年 5 月 17 日　18:30〜20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

発表 1：「ベトナムの言語教育 ―現地調査をとおして―」

発表者：田原洋樹（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

発表 2：「スペイン語教育とベトナム語教育」

発表者：高垣敏博（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

※共催：語学研究所

講演会（共催）

"Unmasking bilingual lexicon"

日時：2013（平成 25）年 6 月 13 日　16:00〜17:30

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

講演者：Naoko Witzel（テキサス大学アーリントン校准教授）

※主催：言語・情報コース

第 5 回研究会

日時：2013（平成 25）年 7 月 26 日　18:00〜20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

発表 1：「報告「東京外国語大学における言語能力評価法についてのアンケート」に関する中間報告」

発表者：富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）

発表 2：「韓国の大学における韓国語教育の現状 ―言語能力評価指標の導入を中心に」

発表者：南 潤珍（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

発表 3：「沖縄県における言語教育の調査報告〜中等教育を中心に〜」

発表者：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

※共催：語学研究所

第 6 回研究会

日時：2013（平成 25）年 9 月 27 日　18:00〜20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

発表 1：「多文化関係学会　関西・中部地区研究会『グローバル人材育成と言語教育 ―アジアの未来とダイバーシティ―』の報告」

発表者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

発表 2：「アジア・太平洋地域における CEFR 導入の実態報告(1)
―オーストラリア・ニュージーランド編」
発表者：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）
※共催：語学研究所

講演会

「外国語としてのカンボジア語教育」

日時：2013（平成 25）年 10 月 4 日　12:40～14:10
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）
講演者：VAN, Sovathana（カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教授）
※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、語学研究所

講演会（共催）

“Multicultural Europe: Swedish-Speaking Culture in Finland”

「ヨーロッパの多言語・多文化社会：フィンランドにおけるスウェーデン語文化」

日時：2013（平成 25）年 11 月 8 日　18:00～20:00
会場：東京外国語大学 アゴラ・グローバル 3 階プロジェクトスペース
講演 1：“Multicultural Mosaic of Europe”「多文化のモザイクとしてのヨーロッパ」
講演者：チェル・ヘルベルツ（HERBERTS Kjell）
講演 2：“Development of Swedish Literature in Finland”
「フィンランドにおけるスウェーデン語文学の成立」
講演者：クリスティーナ・マルミオ（MALMIO Kristina）
※主催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）／共催：語学研究所

第 7 回研究会

テーマ：「アジア諸国における外国語教育 ―現地調査より―」

日時：2013（平成 25）年 12 月 6 日　18:00～20:00
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）
発表 1：「ミャンマーの言語教育状況報告」
発表者：岡野賢二（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）
発表 2：「マレーシアの大学における外国語としてのマレー語教育の現状」
発表者：野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）
ウン・シンティ（東京外国語大学大学院博士前期課程）
※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、語学研究所

第 8 回研究会

「近未来日本のグローバル人材を育てる言語教育とは

—京都大学特別シンポジウム『グローバル人材と日本語』に参加して—」

日時：2014（平成 26）年 2 月 7 日　18:00～20:00

会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

報告者：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

コメンテーター：田原洋樹（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授）

山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

※共催：東京外国語大学世界言語社会教育センター（WoLSEC）、語学研究所

6.2. 海外調査等一覧

・調査者　：山崎吉朗（一般財団法人日本私学教育研究所専任研究員）

調査期間：2012 年 11 月 22 日～11 月 26 日

研究機関：沖縄大学、那覇国際高校、琉球大学、八重山高校（沖縄）

・調査者　：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）

調査期間：2012 年 11 月 23 日～11 月 26 日

研究機関：国際日本語教育・日本研究シンポジウム（香港城市大学：香港）

・調査者　：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）

野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）

富盛伸夫（東京外国語大学世界言語社会教育センター特定研究員）

調査期間：2012 年 12 月 4 日～12 月 11 日

研究機関：第 5 回シンガポール国立大学言語教育主催国際学会 CLaSIC 2012

（シンガポール国立大学：シンガポール）

・調査者　：矢頭典枝（神田外語大学英米語学科准教授）

調査期間：2013 年 2 月 22 日～2 月 23 日

研究機関：第 7 回京都言語文化教育研究会（京都大学：京都）

・調査者　：成田節（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

調査期間：2013 年 2 月 27 日～3 月 1 日

研究機関：ドイツ語辞典研究会（島根大学：島根）

・調査者　：高垣敏博（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

田原洋樹（立命館アジア太平洋大学太平洋学部准教授）

調査期間：2013 年 2 月 27 日～3 月 6 日

研究機関：ホーチミン市国家大学社会科学人文大学、ホーチミン市外国語情報大学
（ベトナム）

・調査者　：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）
調査期間：2013 年 3 月 10 日～3 月 16 日
研究機関：オークランド大学、オークランド工科大学（ニュージーランド）

・調査者　：南潤珍（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）
調査期間：2013 年 5 月 2 日～5 月 8 日
研究機関：ソウル大学、延世大学、韓国外国語大学、国立国語院、世宗学堂財団（韓国）

・調査者　：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）
調査期間：2013 年 7 月 20 日～7 月 21 日
研究機関：関西学院大学（兵庫）

・調査者　：拝田清（四天王寺大学教育学部准教授）
調査期間：2013 年 8 月 11 日～8 月 20 日
研究機関：ラトローブ大学、メルボルン大学，モナシュ大学、シドニー工科大学
ニューサウスウェールズ大学、シドニー大学、オークランド大学
オークランド工科大学（オーストラリア、ニュージーランド）

・調査者　：岡野賢二（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）
調査期間：2013 年 9 月 17 日～9 月 22 日
研究機関：ヤンゴン外国語大学（ミャンマー）

・調査者　：野元裕樹（東京外国語大学大学院総合国際学研究院講師）
ウン・シンティ（東京外国語大学大学院博士前期課程）
調査期間：2013 年 9 月 18 日～9 月 28 日
研究機関：マレーシア科学大学、マラヤ大学、マレーシア国民大学（マレーシア）

・調査者　：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）
調査期間：2013 年 11 月 16 日～11 月 17 日
研究機関：「ビジネス日本語研究会」第 11 回研究会（兵庫）

・調査者　：藤森弘子（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）
調査期間：2014 年 1 月 25 日～1 月 26 日
研究機関：京都大学（京都）

・調査者　：萬宮健策（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

調査期間：2014 年 2 月 27 日～3 月 10 日

研究機関：カラチ大学、パンジャーブ大学オリエンタルカレッジ（パキスタン）

・調査者　：矢頭典枝（神田外語大学英米語学科准教授）

調査期間：2014 年 2 月 26 日～3 月 4 日

研究機関：シンガポール国立大学（シンガポール）<予定>

6.3. 運営会議一覧

第 1 回運営会議
日時：2012 年 6 月 15 日　17:30～18:15
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 2 回運営会議
日時：2012 年 11 月 22 日　17:30～18:00
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 3 回運営会議
日時：2013 年 2 月 1 日　17:00～18:00
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 4 回運営会議
日時：2013 年 5 月 17 日　16:30～16:40
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 5 回運営会議
日時：2013 年 7 月 26 日　18:00～18:30
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 6 回運営会議
日時：2013 年 9 月 27 日　18:00～18:30
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 7 回運営会議
日時：2013 年 12 月 6 日　17:45～18:00
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

第 8 回運営会議
日時：2014 年 2 月 7 日　17:45～18:00
会場：語学研究所（東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 4 階 419 号室）

==========

＜参考文献・関連サイト一覧＞

木戸裕（2005）「ヨーロッパの高等教育改革、ボローニャ・プロセスを中心にして」,『レファレンス』, 2005 年 11 月号.

木戸裕（2008）「ヨーロッパ高等教育の課題 ―ボローニャ・プロセスの進展状況を中心として――」,『レファレンス』, 2008 年 8 月号.

国際交流基金編（2005）「ヨーロッパにおける日本語教育事情と Common European Framework of Reference for Languages」 (www.jpf.go.jp/j/publish/japanese/euro/pdf/ceforfl.pdf), PDF 版.

東京外国語大学国際学術戦略本部（OFIAS）（2008）『東京外国語大学国際学術戦略本部（OFIAS）調査レポート・資料集 I』,（新井早苗編著）

東京外国語大学国際学術戦略本部「世界の高等教育動向リンク集 ―ボローニャ・プロセス―」, (http://ofias.jp/j/strategy/bologna.html)

富盛伸夫（2005）「EU 諸国における早期外国語教育」,『外国語教育研究』, 外国語教育学会第 8 号, pp. 115-121.

富盛伸夫（2006）「フランス語能力検定試験と言語能力評価基準」,『外国語教育研究』, 外国語教育学会第 9 号, pp. 104-115.

富盛伸夫（2009）「ヨーロッパ連合（EU）における高等教育改編と言語教育改革の問題点について」,『外国語教育研究』, 外国語教育学会第 12 号, pp. 102-110.

文化庁（2003）『EU 拡大 と言語政策に関する調査研究報告書』.

真嶋潤子（2007）「言語教育における到達度評価制度に向けて―CEFR を利用した大阪外国語大学の試み」,『間谷論集』創刊号, 日本語日本文化教育研究会, pp. 3-27.

======

Commission of the European Communities, *European Year of Languages*, 2001.

Commission of the European Communities, *Higher Education in the European Community*, 1999.

Council of Europe, *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment.* Cambridge University Press. 2001.
http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/cadre_en.aspCouncil of Europe, *LINGUA Programme*, 2000.

Council of Europe, *LINGUA Activity Report*, 1999.

Council of Europe, *Modern Languages: Learning, Teaching, Assessment*, 1999.

European Commission, *SOCRATES: Guidelines for the year* 2000.

European Commission, *The New EU Education and Youth Programmes*, 2000.

European Commission, *LINGUA Action A, B, C, D* 1998.